

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名：一般国道490号 宇部拡幅	事業区分：一般国道	事業主体：山口県		
起終点：自：山口県宇部市上宇部 至：山口県宇部市善和		延長：6.0km		
事業概要 一般国道490号は、山口県宇部市を起点とし、山口県萩市へ至る延長約66kmの幹線道路であり、宇部拡幅は、宇部市内の渋滞を緩和し、安全で円滑な交通の確保を目的としている。				
H5年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H5年度用地着手		
		H7年度工事着手		
全体事業費	175億円	事業進捗率		
		85%		
計画交通量	28,300台/日	供用済延長		
		3.1km		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.7	総費用 (残事業)/ (事業全体) 23/216億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) 265/589億円	基準年 平成19年
	(残事業) 11.8	事業費：20/210億円 維持管理費：2.4/6.1億円	走行時間短縮便益：225/505億円 走行経費減少便益：29/62億円 交通事故減少便益：9.9/22億円	
感度分析の結果 <残事業> 交通量変動： B/C=13.2 (交通量 +10%) B/C=10.8 (交通量 -10%) 事業費変動： B/C=11.0 (事業費 +10%) B/C=13.2 (事業費 -10%)				
事業の効果等 渋滞の緩和、高規格幹線道路へのアクセス性の向上、バイパス沿線開発の促進、地域産業・観光産業の振興、CO2削減による環境改善				
関係する地方公共団体等の意見 本市の南北方向の基幹道路としての役割を担っていることから、朝夕ラッシュ時の渋滞の緩和や円滑な交通を確保するため、早期整備が望まれる。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 交差する山陽自動車道宇部下関線が平成12年度に開通し、宇部拡幅の重要性は高まっている。また、H8に第1次緊急輸送道路に指定され、H15に合併支援道路に位置づけられた。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成18年度までに3.1kmを供用し、引き続き残り2.9kmの整備を行う。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き工事を推進し、平成20年代後半の全線供用を図る。				
施設の構造や工法の変更等 リサイクル製品の積極的な活用により、コスト縮減を図る。				
対応方針 対応方針決定の理由 以上の状況を勘案し、整備効果も十分期待できる。				
事業概要図				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。